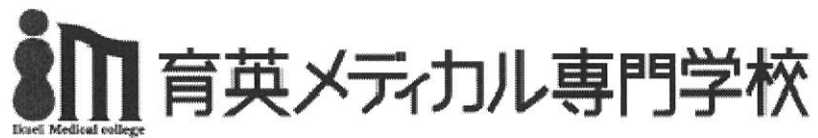


令和 6 年度



鍼灸学科 2 年

講義要項（シラバス）

講義科目名	生理学Ⅱ	分野区分	専門基礎分野
担当教員名	今井 香菜	講義回数	40 回
履修学年	第 2 学 年	履修期間	通 年
講義内容	生理学では、どのような仕組みで私達の身体が正常に機能しているのか、その調節機構についてを学ぶ。人間の身体の仕組みについて、個々の機能の基本的な理解を深め生体全体の相互機能を理解することを目的に学習していく。 生理学Ⅱでは教科書の後半部分である、第7章、第10章から第15章を学習する。		
評価	期末試験の得点70%と実力試験の得点30%の合計点が各期末の評価となります。課題ゼミの提出状況や確認テストは各期末の評価に加味されます。出席状況・授業態度などは年度末の総合評価の時点で加味することがあります。		
備考	進行状況や理解度に応じて授業内容に変更が生じることもあります。		
参考書等	教科書:生理学 医歯薬出版		

第 2 学 年 科 目 (生 理 学 Ⅱ)				担 当 (今 井 香 菜)		
	編	章	節	時 数	日 付	内 容
前期	1	第7章 排泄	A節	1	4月8日	腎臓の働き
	2		B節	2	4月15日	腎循環
	3		C節	3	4月22日	尿生成・腎臓と体液調節
	4		D節	4	5月13日	畜尿と排尿
	5	第10章 神経	A節	5	5月20日	ニューロンの構造と働き
	6		B節	6	5月27日	神経線維の興奮伝導
	7		C節	7	6月3日	シナプス伝達
	8		D節	8	6月10日	中枢神経系の分類と機能
	9		E節	9	6月17日	反射
	10		K節	10	6月24日	大脳
11		I節 J節	11	7月1日	視床・視床下部	
12		G節 H節	12	7月8日	脳幹・小脳	
13		F節 L節	13	7月15日	脊髄・脳脊髄液	
14		M節	14	7月22日	末梢神経系	
15		N節	15	7月29日	自律神経系①	
16		N節	16	8月5日	自律神経系②	
17			17	8月19日	前期末試験	
18		前期末試験				
19		第11章 筋	A節	18	8月26日	骨格筋の構造と働き
20		解答・解説		19	9月2日	解答・解説
後期	21		B節	20	9月9日	筋の収縮の仕組み
	22		C節 D節	21	9月23日	筋のエネルギー供給の仕組み・心筋と平滑筋
	23	第12章 運動	A節	22	9月30日	骨格筋の神経支配
	24		B節	23	10月7日	運動の調節
	25		C節	24	10月21日	錐体路系と錐体外路系
	26		D節	25	10月28日	発声と発語
	27	第13章 感覚	A節	26	11月4日	感覚の分類と一般的性質
	28		B節	27	11月11日	体性感覚
	29		C節	28	11月18日	内臓感覚
	30		D節	29	11月25日	痛覚
	31		E節	30	12月2日	味覚と嗅覚
	32		F節	31	12月9日	聴覚
	33		G節	32	12月16日	平衡感覚
	34		H節	33	1月6日	視覚①
	35		H節	34	1月20日	視覚②
	36	第14章 生体の防御機構	A節	35	1月27日	生体の防御機構
	37		B節	36	2月3日	免疫反応
	38	後期末試験		37	2月10日	後期末試験
	39		第15章 身体活動の協調	38	2月17日	生体の適応・恒常性維持
	40		解答・解説	39	2月24日	解答・解説
		C節	40	3月3日	バイオリズム	
				40	※7/15・9/23・11/4・2/24は祝日ですが、授業日となりますのでご注意ください。 ※日程は変更されることがあります。	
				合 計 時 数		

講義科目名	臨床医学各論Ⅰ	分野区分	専門基礎分野
担当教員名	荒木 宏之	講義回数	40 回
履修学年	第 2 学 年	履修期間	通 年
講義内容	「臨床医学各論」は鍼灸師に必要とされる疾患の診断および特徴・症状・検査・治療等に関する基礎的な知識について学びます。 ・疾患の特徴は基礎医学の知識を基盤に疾患の大まかな概念について講義します。 ・疾患の症状は臓器特有の症状および合併症に伴う症状について講義します。 ・疾患検査は臓器および疾患特有の検査値について講義します。		
評 価	・期末試験の得点70%と実力試験の得点30%の合計点が各期末の評価となります。 ・課題ゼミの提出状況や確認テストは各期末の評価に加味されます。 ・出席状況・授業態度などは年度末の総合評価の時点で加味します。		
備 考	進行状況や理解度に応じて授業内容に変更が生じることもあります。		
参考書等	教科書:臨床医学各論 医歯薬出版		

第2学年 科目(臨床医学各論Ⅰ)				担当(荒木 宏之)			
	編	章	節	時数	日付	内容	
前期	1	第8章 整形外科疾患	A節	1	4月8日	総論	
	2		B節	2	4月15日	関節疾患①	
	3		B節	3	4月22日	関節疾患②	
	4		C節	4	5月13日	骨代謝性疾患・骨腫瘍	
	5		D節	5	5月20日	筋・腱疾患	
	6		E節	6	5月27日	形態異常	
	7		F節	7	6月3日	脊椎疾患①	
	8		F節	8	6月10日	脊椎疾患②	
	9		F節	9	6月17日	脊椎疾患③	
	10		G節	10	6月24日	脊髄損傷	
	11		H節	11	7月1日	外傷①	
	12		H節	12	7月8日	外傷②	
	13		I節	13	7月15日	その他の整形外科疾患①	
	14		I節	14	7月22日	その他の整形外科疾患②	
	15	第1章 感染症	A節 B節	15	7月29日	総論 細菌感染症	
	16		C節	16	8月5日	ウイルス感染症	
	17	前期末試験		17	8月19日	前期末試験	
	18		D節	18	8月26日	性感染症	
	19	解答・解説		19	9月2日	解答・解説	
	20	第2章 消化管疾患	A節 B節	20	9月9日	口腔疾患・食道疾患	
後期	21		C節	21	9月23日	胃・十二指腸疾患	
	22		D節 E節	22	9月30日	腸疾患、腹膜疾患	
	23	第3章 肝・胆・膵疾患	A節	23	10月7日	肝臓疾患①	
	24		A節	24	10月21日	肝臓疾患②	
	25		B節	25	10月28日	胆道疾患	
	26		C節	26	11月4日	膵臓疾患	
	27	第4章 呼吸器疾患	A節	27	11月11日	感染性呼吸器疾患	
	28		B節	28	11月18日	閉塞性呼吸器疾患	
	29		C節	29	11月25日	拘束性呼吸器疾患	
	30		D節	30	12月2日	その他の呼吸器疾患	
	31	第5章 腎・尿器疾患	A節 B節	31	12月9日	原発性糸球体腎炎・腎不全	
	32		C節 D節	32	12月16日	感染症・腫瘍性疾患	
	33		E節 F節	33	1月6日	結石症・前立腺疾患	
	34	第6章 内分泌疾患	A節 B節	34	1月20日	下垂体疾患	
	35		B節	35	1月27日	甲状腺疾患	
	36		C節	36	2月3日	副腎疾患	
	37	後期末試験		37	2月10日	後期末試験	
	38	第7章 代謝・栄養疾患	A節	38	2月17日	糖代謝異常	
	39	解答・解説		39	2月24日	解答・解説	
	40		B節 C節 D節	40	3月3日	脂質代謝異常・その他の代謝異常	
				合計 時数	※7/15・9/23・11/4・2/24は祝日ですが、授業日となりますのでご注意ください。 ※日程は変更されることがあります。		

講義科目名	鍼灸実技Ⅳ	分野区分	専門分野
担当教員名	佐藤 真之(実務経験有り)	講義回数	40 回
履修学年	第 2 学 年	履修期間	通 年
講 義 内 容	治療において重要なことは確実性とスピードである。どちらかが欠けても、十分な治療効果は挙げられないし、患者も満足しない。これらを解決するために必要なことは、やはり基本的な知識をしっかりと身に付けることである。具体的には次のことを行っていく。 1. 経穴の部位の習得(近年の国家試験ではより重要になってきている。) 2. 望診・聞診・問診・切診の滑らかなすすめ方 また、鍼だけでなく灸の技術の向上も治療の幅を広げるためにはふかけつであるため、灸技術向上も目指していく。 以上のことを念頭におきながら、各項目に必要な様々な技術、治療法を学び臨床への足固めとなるようにしていきたい。		
評 価	1 実技試験 2 口頭での質問 以上を以って評価とする。		
備 考	経絡経穴概論の教科書、及び筆記用具は常に持参のこと。 前期試験は8月20日・8月27日・9月3日に行う。 後期試験は1月28日・2月4日・2月11日に行う。		
参 考 書 等	経絡経穴概論(医歯薬出版) 問診・診察ハンドブック(医道の日本社)		

第2学年 科目(鍼灸実技Ⅳ)

担当(佐藤 真之)

	編	章	節	時数	日付	内容
前期	1		組み合わせでの練習	1	4月9日	基本的な刺激、基本的な施灸について
	2		組み合わせでの練習	2	4月16日	施灸(腰背部4点3壮)
	3		組み合わせでの練習	3	4月23日	施灸(腰背部4点3壮)
	4		組み合わせでの練習	4	5月7日	望診(顔)
	5		組み合わせでの練習	5	5月14日	望診(上下肢)
	6		組み合わせでの練習	6	5月21日	望診(体幹・歩容)
	7		組み合わせでの練習	7	5月28日	望診(声・音・におい)
	8		組み合わせでの練習	8	6月4日	問診①
	9		組み合わせでの練習	9	6月11日	問診②
	10		組み合わせでの練習	10	6月18日	切診(腹診・背診)
	11		組み合わせでの練習	11	6月25日	切診(腹診・背診)
	12		組み合わせでの練習	12	7月2日	切診(脈診)
	13		組み合わせでの練習	13	7月9日	切診(脈診)
	14		組み合わせでの練習	14	7月16日	特殊鍼法
	15		組み合わせでの練習	15	7月23日	特殊鍼法
	16		組み合わせでの練習	16	7月30日	特殊鍼法
後期	17	前期末試験	試験	17	8月20日	施灸(腰背部4点3壮)
	18	前期末試験	試験	18	8月27日	施灸(腰背部4点3壮)
	19	前期末試験	試験	19	9月3日	施灸(腰背部4点3壮)
	20		組み合わせでの練習	20	9月10日	治療のシュミレーション(腰部)
	21		組み合わせでの練習	21	9月24日	治療のシュミレーション(腰部)
	22		組み合わせでの練習	22	10月8日	問題点の把握
	23		組み合わせでの練習	23	10月15日	治療のシュミレーション(背部)
	24		組み合わせでの練習	24	10月22日	問題点の把握
	25		組み合わせでの練習	25	10月29日	治療のシュミレーション(膝部)
	26		組み合わせでの練習	26	11月5日	問題点の把握
	27		組み合わせでの練習	27	11月12日	治療のシュミレーション(足部)
	28		組み合わせでの練習	28	11月19日	問題点の把握
	29		組み合わせでの練習	29	11月26日	治療のシュミレーション(肩部)
	30		組み合わせでの練習	30	12月3日	問題点の把握
	31		組み合わせでの練習	31	12月10日	治療のシュミレーション(頸部)
	32		組み合わせでの練習	32	12月17日	問題点の把握
	33		組み合わせでの練習	33	1月7日	治療のシュミレーション(肘部)
	34		組み合わせでの練習	34	1月14日	問題点の把握
	35		組み合わせでの練習	35	1月21日	治療のシュミレーション(その他)
	36	後期末試験	試験	36	1月28日	実技試験
	37	後期末試験	試験	37	2月4日	実技試験
	38	後期末試験	試験	38	2月11日	実技試験
	39			39	2月18日	解説と今後の課題
	40			40	2月25日	総括

合計時数

※2月11日は祝日ですが、授業日となりますのでご注意ください。
※日程は変更されることがあります。

講義科目名	解剖学Ⅱ	分野区分	専門基礎分野
担当教員名	佐野 潮里	講義回数	40 回
履修学年	第 2 学 年	履修期間	通 年
講義内容	2年時の解剖学では運動器系以外の人体の構造について学んでいく。 我々が鍼灸師として人体に刺鍼を行っていく上で、安全に治療を行うには臓器の機能、構造、位置関係を学ぶ事は非常に重要である。 また解剖学は他科目の土台としても重要であるため、しっかりと学んでいただきたい。		
評価	期末試験(70%)と実力試験(30%)の合計点が各期末の評価となります。 課題ゼミの提出状況や確認テストは各期末の評価に加味されます。 出席状況や授業態度は年度末の総合評価の時点で加味します。		
備考	・進行状況や理解度に応じて、授業内容に変更がでることもあります。 ・進行状況や理解度に応じて、小テスト、問題演習を行うこともあります。		
参考書等	解剖学第2版 東洋療法学校協会編(医歯薬出版)		

第 2 学 年 科 目 (解剖学Ⅱ)

担 当 (佐野 潮里)

	編	章	節	時 数	日 付	内 容
前期	1	1章人体の構成	細胞	1	4月9日	細胞、遺伝子
	2	1章人体の構成	組織	2	4月16日	組織・骨組織
	3	1章人体の構成	組織	3	4月23日	組織・筋組織・神経組織
	4	1章人体の構成	組織	4	5月7日	体表解剖
	5	8章神経系	中枢神経	5	5月14日	神経総論・脊髄
	6	8章神経系	中枢神経	6	5月21日	延髄、橋、中脳、小脳、間脳
	7	8章神経系	中枢神経	7	5月28日	大脳皮質、大脳基底核、大脳の白質
	8	8章神経系	中枢神経	8	6月4日	脳室系、髄膜、脳脊髄液、脳の血管
	9	8章神経系	末梢神経	9	6月11日	伝導路
	10	8章神経系	末梢神経	10	6月18日	伝導路
	11	8章神経系	末梢神経	11	6月25日	脳神経
	12	8章神経系	末梢神経	12	7月2日	脊髄神経
	13	8章神経系	末梢神経	13	7月9日	脊髄神経
	14	8章神経系	末梢神経	14	7月16日	自律神経
	15	10章運動器系	運動器系	15	7月23日	局所解剖①
	16	10章運動器系	運動器系	16	7月30日	局所解剖②
	17	前期末試験		17	8月20日	前期末試験
後期	18	3章呼吸器系	呼吸器	18	8月27日	鼻腔・副鼻腔・咽頭・喉頭
	19	解答・解説		19	9月3日	解答解説
	20	3章呼吸器系	呼吸器	20	9月10日	気管と気管支・肺
	21	4章消化器系	消化器系	21	9月24日	消化管の基本構造、口腔
	22	4章消化器系	消化器系	22	10月8日	咽頭、食道、胃
	23	4章消化器系	消化器系	23	10月15日	小腸、大腸
	24	4章消化器系	消化器系	24	10月22日	肝臓、胆嚢
	25	4章消化器系	消化器系	25	10月29日	脾臓・腹膜
	26	5章泌尿器系	泌尿器系	26	11月5日	腎臓
	27	5章泌尿器系	泌尿器系	27	11月12日	腎臓・尿路
	28	6章生殖器系	生殖器系	28	11月19日	男性生殖器
	29	6章生殖器系	生殖器系	29	11月26日	女性生殖器
	30	6章生殖器系	生殖器系	30	12月3日	受精と発生
	31	7章内分泌系	内分泌系	31	12月10日	内分泌
	32	9章感覚器系	感覚器系	32	12月17日	視覚器
	33	9章感覚器系	感覚器系	33	1月7日	平衡聴覚器
	34	9章感覚器系	感覚器系	34	1月14日	味覚器・嗅覚器
	35	問題演習		35	1月21日	問題演習
	36	問題演習		36	1月28日	問題演習
	37	後期末試験		37	2月4日	後期末試験
	38	問題演習		38	2月11日	問題演習
	39	解答・解説		39	2月18日	解答解説
	40	問題演習		40	2月25日	問題演習
合 計 時 数				40	※2月11日は祝日ですが、授業日となりますのでご注意ください。 ※日程は変更されることがあります。	

講義科目名	東洋医学臨床論Ⅰ	分野区分	専門分野
担当教員名	北上 貴史	講義回数	40 回
履修学年	第 2 学 年	履修期間	通 年
講義内容	東洋医学・西洋医学の両医学の各症候についての病態生理 不適応疾患の鑑別 鍼灸のアプローチ方法を学び、臨床力を身につける。 西洋医学的な病態生理をもとに、主に筋、神経を主とした解剖学的局所治療穴を考える ことが出来る。 東洋医学的な病態生理をもとに、導き出された弁証をもとに治療穴を考えることが出来る。		
評価	期末試験の得点(60%)と実力試験の得点(30%)、小テストの獲得点数(10%)、問題ゼミの加点の合計点が各期末の評価となる。 小テストの得点を獲得するには、小テストを受験しなければならない。(遅刻・欠席は当該実施回の得点を獲得できない) 小テストは前期20回、後期20回、講義内容の復習テスト(全5問)を実施する。1回あたり0.5点となる。 1週間以内に間違いを直して提出した者は、1回あたりの満点(0.5点)を獲得できる。		
備考	進行状況や理解度に応じて、授業内容に変更がでることもある。		
参考書等	必要に応じて資料の配布を行う。		

第 2 学 年 科 目 (東 洋 医 学 臨 床 論 I)				担 当 (北 上 貴 史)		
	編	章	節	時 数	日 付	内 容
前期	1	第1章	第1節 鍼灸臨床	1	4月10日	鍼灸臨床
	2		第2節 治療穴とその応用	2	4月17日	治療穴とその応用①
	3			3	4月24日	治療穴とその応用②
	4		第3節 手技と手法	4	5月8日	手技と手法①
	5			5	5月15日	手技と手法②
	6	第2章	第1節 疼痛	6	5月22日	疼痛概説①
	7			7	5月29日	疼痛概説②
	8			8	6月5日	頭痛
	9			9	6月12日	頭痛②
	10			10	6月19日	顔面痛
	11			11	6月26日	関節痛①
	12			12	7月3日	関節痛②
	13			13	7月10日	頸肩腕痛
	14			14	7月17日	頸肩腕痛②
	15			15	7月24日	頸肩腕痛③
	16			16	7月31日	上肢痛①
	17			17	8月21日	前期末試験
	18			18	8月28日	上肢痛②
	19			19	9月4日	解答・解説
	20			20	9月11日	肩関節痛①
後期	21			21	9月25日	肩関節痛②
	22			22	10月2日	腰下肢痛①
	23			23	10月9日	腰下肢痛②
	24			24	10月16日	腰下肢痛③
	25			25	10月23日	腰痛①
	26			26	10月30日	腰痛②
	27			27	11月6日	下肢痛
	28			28	11月20日	下肢痛②
	29			29	11月27日	膝痛①
	30			30	12月4日	膝痛②
	31			31	12月11日	胸痛①
	32			32	12月18日	胸痛②
	33			33	1月8日	腹痛①
	34			34	1月15日	腹痛②
	35		第2節 臓腑と関連する症候	35	1月22日	眼精疲労①
	36		肝系統	36	1月29日	眼精疲労②
	37			37	2月5日	期末試験
	38			38	2月12日	気分障害(うつ状態)①
	39			39	2月19日	解答・解説
	40			40	2月26日	気分障害(うつ状態)②
合 計 時 数				40	※日程は変更されることがあります。	

講義科目名	リハビリテーション医学Ⅰ	分野区分	専門分野
担当教員名	佐野 潮里	講義回数	20 回
履修学年	第 2 学 年	履修期間	前 期
講 義 内 容	医学の進歩により、新たな治療法・新薬普及に加えて医療体制が整備されたことにより、高齢化は進み健康寿命と平均寿命に差が生じ、慢性疾患が増加の一途をたどっている。 その中で、リハビリテーション提供が求められておりその実現には多職種連携による協働が不可欠であり、はり師きゅう師もその一員となる。 したがってリハビリテーション医学の基礎と臨床に関する知識、技術をもつことが重要である。 本科目ではそのリハビリテーション医学の基礎知識から評価の仕方などを含めて学習していく。		
評 価	・期末試験の得点70%と実力試験の得点30%の合計点が各期末の評価となります。 ・出席状況・授業態度・小テストなどは年度末の総合評価の時点で加味します。		
備 考	教科書は必ず毎授業持参のこと ※進行状況や理解度に応じて、授業内容に変更がでることもあります。		
参 考 書 等	新版 リハビリテーション医学		

第 2 学 年 科 目 (リハビリテーション医学Ⅰ) 担 当 (佐野 潮里)						
	編	章	節	時 数	日 付	内 容
前期	1	第1章	リハビリテーション医学・医療	1	4月10日	理念・目的、語源・歴史、生活機能分類
	2	"	"	2	4月17日	リハビリテーションの分野、リハビリテーション医療、リハビリテーション医療チーム
	3	"	"	3	4月24日	地域リハビリテーション
	4	第2章	運動学	4	5月8日	バイオメカニクス、機能解剖学
	5	"	"	5	5月15日	機能解剖学
	6	"	"	6	5月22日	運動発達、姿勢防御
	7	"	"	7	5月29日	歩行、運動学習
	8	第3章	診断・評価学	8	6月5日	診断・評価とは、リハビリテーション診療の流れ
	9	"	"	9	6月12日	検査・測定
	10	"	"	10	6月19日	検査・測定
	11	"	"	11	6月26日	検査・測定
	12	第4章	治療学	12	7月3日	運動療法
	13	"	"	13	7月10日	物理療法
	14	"	"	14	7月17日	作業療法・言語聴覚療法
	15	"	"	15	7月24日	補装具
	16	"	"	16	7月31日	自助具・福祉用具
	17	前期末試験		17	8月21日	前期末試験
	18			18	8月28日	問題演習
	19	解答・解説		19	9月4日	解答・解説
	20			20	9月11日	問題演習
合 計 時 数				20	※日程は変更されることがあります。	

講義科目名	心理学	分野区分	基礎分野
担当教員名	泉水 清志	講義回数	20 回
履修学年	第 2 学 年	履修期間	後 期
講義内容	心理学は、人間の心や行動を理解する学問です。医療従事者が心理学を学習する目的として、次の2つがあります。 第1は、自己をよく理解するためです。将来の医療現場で適応するためには、自分自身を正しく理解することが必要です。自分に対する理解が不十分な場合、さまざまな場面で問題や不適応を起こしやすいため、心理学を通して自己を理解することは大変重要です。 第2は、患者をよく理解するためです。将来の医療現場で患者と上手に接するためには、相手の行動やパーソナリティ、情緒などを正しく理解することが必要です。また、患者の家族や職場の同僚と良い人間関係を築く必要もあり、心理学を通して相手を理解したり他者との関係に応用したりすることは大変重要です。 本講義は、心理学の基礎的知識を修得し、医療現場や対人関係に応用していくことができるようになることを目標とします。 授業は、講義形式を基本とします。日常生活での具体例を取り上げたり、テーマによって心理テストやグループワークを実施したりすることで、心理学の理解を深めていきます。各テーマに積極的に取り組むとともに、普段の生活から心理学について考えるようにして下さい。		
評価	定期試験の結果をもとに評価します。		
備考	授業内容は、将来の医療現場で活用できることが多いため、それを意識して積極的に授業に取り組むようにして下さい。授業の態度が良くない場合、期末試験を受験することができないこともあります。		
参考書等	テキストは使用せず、教材提示によって講義をすすめ、必要に応じて資料を配布します。		

第 2 学 年 科 目 (心 理 学)					担 当 (泉 水 清 志)					
	編	章	節	時数	日付	内 容				
後期	21		オリエンテーション	1	9月25日	ガイダンス(心理学とは何か)				
	22		心理学の基礎	2	10月2日	知覚の心理				
	23		心理学の基礎	3	10月9日	対人認知の心理				
	24		心理学の基礎	4	10月16日	記憶の心理				
	25		心理学の基礎	5	10月23日	学習の心理				
	26		心理学の基礎	6	10月30日	感情の心理				
	27		心理学の基礎	7	11月6日	動機づけの心理				
	28		心理学の基礎	8	11月20日	パーソナリティの心理				
	29		心理学の基礎	9	11月27日	発達の心理				
	30		心理学の基礎	10	12月4日	集団の心理				
	31		心理学の応用	11	12月11日	対人関係の心理				
	32		心理学の応用	12	12月18日	コミュニケーションの心理				
	33		心理学の応用	13	1月8日	消費者の心理				
	34		心理学の応用	14	1月15日	カウンセリングの心理① カウンセリングの基礎				
	35		心理学の応用	15	1月22日	カウンセリングの心理② カウンセリングの応用				
	36		心理学の応用	16	1月29日	患者の心理、後期末試験の説明				
	37		後期末試験	17	2月5日	後期末試験				
	38			心理学の応用	18	2月12日	職場の心理			
	39		解答・解説		19	2月19日	解答・解説			
	40		心理学の応用		20	2月26日	日常生活への応用			
				合計 時 数	20	※日程は変更されることがあります。				

講義科目名	東洋医学概論Ⅱ	分野区分	専門分野
担当教員名	福島 功一	講義回数	20 回
履修学年	第 2 学 年	履修期間	前 期
講義内容	【 概要 】 ・1年次に履修した東洋医学概論Ⅰを元に、東洋医学に基づいた診察理論および治療理論を学習する。 【 目標 】 ・東洋医学の診察理論と方法を理解し、心身の状態を把握・説明できる。 ・東洋医学の治療理論を理解し、説明・実践できる。 【 授業形式 】 ・講義		
評価	・期末試験の素点に問題ゼミの得点を加点した合計点の70%と実力試験の科目別得点の30%を合算した点数が各期末の最終評価となる(最終評価は100点を超えない)。 ・出席状況、授業態度、小テストなどは年度末の総合評価の時点で加味する。		
備考	・適宜、小テスト・口頭試問・復習課題を実施する。 ・授業に用いる資料はA3およびA4サイズで配布する。 ・2色以上のカラーペンおよびマーカーペンを用意すること。 ・進捗状況や理解度に応じて授業内容を変更する場合がある。		
参考書等	・新版 東洋医学概論(医道の日本社)		

第 2 学 年 科 目 (東 洋 医 学 概 論 Ⅱ) 担 当 (福 島 功 一)						
	編	章	節	時 数	日 付	内 容
前期	1		四診①	1	4月11日	望診、聞診
	2		四診②	2	4月18日	問診①
	3		四診③	3	4月25日	問診②
	4		四診④	4	5月9日	問診③
	5		四診⑤	5	5月16日	問診④
	6		四診⑥	6	5月23日	問診⑤
	7		四診⑦	7	5月30日	問診⑥
	8		四診⑧	8	6月6日	切診①
	9		四診⑨	9	6月13日	切診②
	10		四診⑩	10	6月20日	切診③
	11		四診⑪	11	6月27日	四診まとめ
	12		論治①	12	7月4日	養生法、古代九鍼、治則
	13		論治②	13	7月11日	補瀉法①
	14		論治③	14	7月18日	補瀉法②
	15		論治④	15	7月25日	補瀉法③
	16		論治⑤	16	8月1日	補瀉法④
	17	前期末試験		17	8月22日	前期末試験
	18	論治	論治⑥	18	8月29日	治法①
	19	解答・解説		19	9月5日	解答・解説
	20	論治	論治⑦	20	9月12日	治法②
合 計 時 数				20	※日程は変更されることがあります。	

講義科目名	臨床医学総論Ⅱ	分野区分	専門基礎分野
担当教員名	福島 功一	講義回数	20 回
履修学年	第 2 学 年	履修期間	後 期
講義内容	【 概要 】 ・1年次に履修した臨床医学総論Ⅰに引き続き、診察の基礎知識を学習する。 ・様々な症状が示唆する疾患の鑑別を学習する。 ・疾患の鑑別に必要な検査の意義と方法を学習する。 【 目標 】 ・診察知識と技術の向上。 ・鑑別知識と技術の向上。 【 授業形式 】 ・講義		
評 価	・期末試験の素点に問題ゼミの得点を加えた合計点の70%と実力試験の科目別得点の30%を合算した点数が各期末の最終評価となる(最終評価は100点を超えない)。 ・出席状況、授業態度、小テストなどは年度末の総合評価の時点で加味する。		
備 考	・プロジェクターの用意をすること。 ・適宜、小テスト・口頭試問・復習課題を実施する。 ・授業に用いる資料はA3サイズで配布する。 ・カラーペンおよびマーカーペンを用意すること。 ・進捗状況や理解度に応じて授業内容を変更する場合がある。		
参考書等	・臨床医学総論(医歯薬出版株式会社)		

第 2 学 年 科 目 (臨床医学総論Ⅱ)				担 当 (福島 功一)		
	編	章	節	時 数	日 付	内 容
21			運動機能検査①	1	9月26日	徒手検査法①
22			運動機能検査②	2	10月3日	徒手検査法②
23		第7章	運動機能検査③	3	10月10日	徒手検査法③
24			運動機能検査④	4	10月17日	運動麻痺、筋肉の異常
25			運動機能検査⑤	5	10月24日	不随意運動、協調運動、起立と歩行
26			神経系の診察①	6	10月31日	感覚検査法
27		第6章	神経系の診察②	7	11月7日	反射検査
28			神経系の診察③	8	11月21日	脳神経系、髄膜刺激症状の検査
29			局所の診察①	9	11月28日	頭部、顔面、眼、鼻の診察
30		第5章	局所の診察②	10	12月5日	耳、口腔、頸部、胸部の診察
31			局所の診察③	11	12月12日	乳房、肺・胸膜、心臓の診察
32			局所の診察④	12	12月19日	腹部、背部の診察
33			局所の診察⑤	13	1月9日	四肢の診察
34			第10章	おもな症状の診察法①	14	1月16日
35		おもな症状の診察法②		15	1月23日	おもな症状の定義・概念、病態生理、分類および原因疾患、臨床症状など②
36		おもな症状の診察法③		16	1月30日	おもな症状の定義・概念、病態生理、分類および原因疾患、臨床症状など③
37		後期末試験		17	2月6日	後期末試験
38		第10章	おもな症状の診察法④	18	2月13日	おもな症状の定義・概念、病態生理、分類および原因疾患、臨床症状など④
39		解答・解説		19	2月20日	解答・解説
40		第11章	治療学	20	2月27日	薬物療法、食事療法、理学療法、その他の療法
合 計				20	※日程は変更されることがあります。	

講義科目名	鍼灸実技Ⅴ	分野区分	専門分野
担当教員名	福島 功一(実務経験有り)	講義回数	40 回
履修学年	第 2 学 年	履修期間	通 年
講 義 内 容	【 概要 】 ・1年次に履修した実技Ⅰおよび実技Ⅱの基礎技術をさらに確立する。 ・取穴に関する体表解剖の知識を高める。 ・古典鍼灸の内容と解釈をあわせて行う。 ・3年次に履修予定の実技Ⅷおよび臨床実習Ⅲ-aに向けて、技術と知識の応用力を高める。 【 目標 】 ・刺鍼および施灸技術の向上。 ・取穴法および取穴に関連する体表解剖知識の向上。 ・東洋医学に基づいた診察および施術の基礎を固める。 ・現代医学に基づいた診察および施術の基礎を固める。 【 授業形式 】 ・実技		
評 価	・前期末試験は8月22日に実施する。 ・後期末試験は1月30日および2月6日に実施する。 ・期末試験の得点が各期末の評価となる。 ・出席状況、授業態度などは年度末の総合評価の時点で加味する。		
備 考	・セイリン製寸3-02番(直径0.12mm、緑色鍼柄)および寸3-1番(直径0.16mm、赤色鍼柄)を各自用意すること。 ・筆記用具を必ず持参すること。 ・後期応用練習ではクリップボードを各自用意すること。 ・その他、必要な用具等の準備がある場合、前以て通知する。 ・進捗状況や理解度に応じて授業内容を変更する場合がある。		
参 考 書 等	・新版 経絡経穴概論(医道の日本社)		

第 2 学 年

科 目 (鍼灸実技 V)

担 当 (福 島 功 一)

		編	章	節		時 数	日 付	内 容
前期	1			経絡・経穴の捉え方①		1	4月11日	骨度、流注、腰部要穴の取穴と施術
	2			経絡・経穴の捉え方②		2	4月18日	背部要穴の取穴と施術
	3			経絡・経穴の捉え方③		3	4月25日	上背部要穴の取穴と施術
	4			経絡・経穴の捉え方④		4	5月9日	項部要穴の取穴と施術
	5			経絡・経穴の捉え方⑤		5	5月16日	四肢要穴の取穴と施術①
	6			経絡・経穴の捉え方⑥		6	5月23日	四肢要穴の取穴と施術②
	7			経絡・経穴の捉え方⑦		7	5月30日	四肢要穴の取穴と施術③
	8			経絡・経穴の捉え方⑧		8	6月6日	四肢要穴の取穴と施術④
	9			経絡・経穴の捉え方⑨		9	6月13日	四肢要穴の取穴と施術⑤
	10			経絡・経穴の捉え方⑩		10	6月20日	四肢要穴の取穴と施術⑥
	11			経絡・経穴の捉え方⑪		11	6月27日	四肢要穴の取穴と施術⑦
	12			経絡・経穴の捉え方⑫		12	7月4日	四肢要穴の取穴と施術⑧
	13			経絡・経穴の捉え方⑬		13	7月11日	四肢要穴の取穴と施術⑨
	14			経絡・経穴の捉え方⑭		14	7月18日	肩関節周囲の取穴と施術
	15			経絡・経穴の捉え方⑮		15	7月25日	股関節周囲の取穴と施術
	16			まとめ		16	8月1日	前期末試験の概要と練習
後期	17			前期末試験		17	8月22日	前期末試験
	18			経絡・経穴の捉え方⑯		18	8月29日	後頭部の取穴と施術
	19			経絡・経穴の捉え方⑰		19	9月5日	解答・解説および顔面部の取穴と施術
	20			経絡・経穴の捉え方⑱		20	9月12日	腹部要穴の取穴と施術
	21			経絡・経穴の捉え方⑲		21	9月26日	胸部要穴の取穴と施術
	22			応用①		22	10月3日	診察と施術(本治と標治)の概要
	23			応用②		23	10月10日	四診と施術①
	24			応用③		24	10月17日	四診と施術②
	25			応用④		25	10月24日	四診と施術③
	26			応用⑤		26	10月31日	臨床実習シミュレーション①
	27			応用⑥		27	11月7日	臨床実習シミュレーション②
	28			応用⑦		28	11月21日	臨床実習シミュレーション③
	29			応用⑧		29	11月28日	臨床実習シミュレーション④
	30			応用⑨		30	12月5日	臨床実習シミュレーション⑤
	31			応用⑩		31	12月12日	臨床実習シミュレーション⑥
	32			応用⑪		32	12月19日	臨床実習シミュレーション⑦
後期	33			応用⑫		33	1月9日	臨床実習シミュレーション⑧
	34			応用⑬		34	1月16日	臨床実習シミュレーション⑨
	35			まとめ		35	1月23日	後期末試験の概要と練習
	36					36	1月30日	後期末試験①
	37					37	2月6日	後期末試験②
	38			応用⑭		38	2月13日	臨床実習シミュレーション⑩
	39			解答・解説		39	2月20日	解答・解説および臨床実習シミュレーション⑪
	40			応用⑮		40	2月27日	臨床実習シミュレーション⑫
合 計 時 数						40	※日程は変更されることがあります。	

講義科目名	鍼灸実技Ⅲ	分野区分	専門分野
担当教員名	佐野 潮里(実務経験有り)	講義回数	40 回
履修学年	第 2 学 年	履修期間	通 年
講義内容	・多くの疾患に対して鍼施術は有効とされているが、我々が使用する経穴の中には内臓損傷を伴う危険があるものも存在する。 解剖学とあわせて安全深度を理解することで事故を未然に防ぐことが重要である。 ・日常生活動作からスポーツ動作の不具合まで、パフォーマンスを改善する上で、徒手検査などの評価を行うことは患者の動作能力低下がなぜ生じているのかを思考する上で非常に重要である。 本科目では解剖学や運動学に基づき適切な評価を行えるようにしていく。 ・美容鍼とは身体の内側から健康になることにより、顔を健やかにすることを目的とした鍼施術のことである。 ・美容のための鍼施術について、必要な知識とカウンセリング、施術方法を学ぶ。 ・鍼管を使わない刺入方法と、症状別鑑別及び施術などについても学習する。		
評価	実技試験をもって各期末の評価とする。		
備考	・毎授業、経穴概論の教科書持参のこと ・下肢の徒手検査、施術を行う際、白衣の下に半ズボンを履いてきてもらうことがあります。 ・本授業内で今井先生による美容鍼の授業を数回予定しております。 日程が変更になることもありますので、その都度アナウンスを行います。		
参考書等	必要に応じて資料の配布を行う。		

第 2 学 年 科 目 (鍼灸実技Ⅲ)					担 当 (佐野 潮里)					
	編	章	節	時 数	日 付	内 容				
前期	1			1	4月12日	ガイダンス 気胸 折鍼 安全深度①				
	2		経穴部位	2	4月19日	経穴部位と安全深度②				
	3		深部腱反射と知覚検査	3	4月26日	深部腱反射と知覚検査				
	4		美容鍼	4	5月10日	美容鍼①(今井)				
	5		頸肩腕痛の検査と施術	5	5月17日	頸部痛				
	6		"	6	5月24日	頸部痛				
	7		"	7	5月31日	頸部痛				
	8		"	8	6月7日	肩関節周囲				
	9		美容鍼	9	6月14日	美容鍼②(今井)				
	10		頸肩腕痛の検査と施術	10	6月21日	肩関節周囲				
	11		"	11	6月28日	肩関節周囲				
	12		美容鍼	12	7月5日	美容鍼③(今井)				
	13		頸肩腕痛の検査と施術	13	7月12日	前腕～手部				
	14		"	14	7月19日	前腕～手部				
	15		試験練習	15	7月26日	試験練習				
	16	前期実技試験		実技試験	16	8月2日	実技試験			
	17			"	17	8月23日	実技試験			
18			美容鍼	18	8月30日	美容鍼④(今井)				
19			腰部痛の検査と施術	19	9月6日	腰部痛				
20			"	20	9月13日	腰部痛				
後期	21		"	21	9月27日	腰部痛				
	22		"	22	10月4日	腰部痛				
	23		膝痛の検査と施術	23	10月11日	膝痛				
	24		"	24	10月18日	膝痛				
	25		"	25	10月25日	膝痛				
	26		下腿部の検査と施術	26	11月1日	下腿部				
	27		"	27	11月8日	足関節				
	28		"	28	11月22日	足関節				
	29		臨床技術	29	11月29日	臨床技術				
	30		"	30	12月6日	臨床技術				
	31		"	31	12月13日	臨床技術				
	32		"	32	12月20日	臨床技術				
	33		試験練習	33	1月10日	試験練習				
	34		"	34	1月17日	試験練習				
	35		実技試験	35	1月24日	実技試験				
	36	後期実技試験		"	36	1月31日	実技試験			
	37		"	"	37	2月7日	実技試験			
	38				38	2月14日	復習①			
	39				39	2月21日	復習②			
	40				40	2月28日	総括			
	合 計 時 数					40	※日程は変更されることがあります。			

講義科目名	病理学概論	分野区分	専門基礎分野
担当教員名	荒木 宏之	講義回数	40 回
履修学年	第 2 学 年	履修期間	通 年
講義内容	疾病とは、生体の恒常性が破綻した状態であり、自覚的には発熱、疼痛、食欲不振、下痢、呼吸困難などのさまざまな症状が現れる。また、客観的には、尿や便の異常、血清の分析結果の異常、画像所見の異常、心電図の異常などとして認識される。病理学は、このような疾病の原因と成り立ちを明らかにする学問であり、臨床医学分野では、疾病の状態を診断して治療の方針を決める病理診断学として重要な役割を担っている。病理学概論の講義では、病理学の基礎を学ぶことによって、疾病の病態生理を十分に理解することを目標とする。		
評価	・期末試験の得点70%と実力試験の得点30%の合計点が各期末の評価となります。 ・課題ゼミの提出状況や確認テストは各期末の評価に加味されます。 ・出席状況・授業態度などは年度末の総合評価の時点で加味します。		
備考	・進行状況や理解度に応じて、授業内容に変更がでることもあります。		
参考書等	教科書 病理学概論		

第 2 学 年				科 目 (病理学概論)		担 当 (荒木 宏之)	
	編	章	節	時 数	日 付	内 容	
前期	1	1、2章	病理学	1	4月12日	病理学とは、疾病についての考え方	
	2	3章	病因	2	4月19日	内因	
	3			3	4月26日	外因(供給障害)	
	4			4	5月10日	外因(物理的病因)	
	5			5	5月17日	外因(化学的病因)	
	6			6	5月24日	外因(生物学的病因)①	
	7			7	5月31日	外因(生物学的病因)②	
	8	4章	循環障害	8	6月7日	充血、うっ血、虚血、出血	
	9			9	6月14日	血栓、塞栓、梗塞	
	10			10	6月21日	水腫、シヨツク	
	11	5章	退行性病変	11	6月28日	萎縮、変性	
	12			12	7月5日	老化、生活習慣病、壊死	
	13	6章	進行性病変	13	7月12日	肥大、過形成	
	14			14	7月19日	再生、化生	
後期	15			15	7月26日	移植、創傷治癒、異物処理	
	16	問題演習		16	8月2日	総合問題演習	
	17	前期末試験		17	8月23日	前期末試験	
	18	8章	炎症	18	8月30日	循環障害と滲出、実質性炎	
	19	解答・解説		19	9月6日	解答・解説	
	20			20	9月13日	漿液性炎、線維素性炎	
	21			21	9月27日	化膿性炎、出血性炎、壊疽性炎	
	22			22	10月4日	増殖性炎	
	23			23	10月11日	特異性炎	
	24	8章	腫瘍	24	10月18日	腫瘍の形態と構造、特色、組織学	
	25			25	10月25日	腫瘍の形態と構造、特色、組織学	
	26			26	11月1日	腫瘍の分類、発生	
	27			27	11月8日	生体に及ぼす影響、発生原因	
	28			28	11月22日	良性腫瘍と悪性腫瘍	
	29	9章	免疫・アレルギー	29	11月29日	液性免疫と細胞性免疫	
	30			30	12月6日	アレルギー	
	31			31	12月13日	免疫不全、自己免疫異常	
	32	10章	先天性異常	32	12月20日	総論、染色体異常	
	33			33	1月10日	遺伝性疾患①	
	34			34	1月17日	遺伝性疾患②	
	35			35	1月24日	奇形	
	36	問題演習		36	1月31日	総合問題演習	
	37	後期末試験		37	2月7日	後期末試験	
	38	総合演習		38	2月14日	総合演習①	
	39	解答・解説		39	2月21日	解答・解説	
	40			40	2月28日	総合演習②	
合 計 時 数				40	※日程は変更されることがあります。		

講義科目名	臨床実習Ⅱ－a	分野区分	専門分野
担当教員名	今井 香菜(実務経験有り)	講義回数	24 回
履修学年	第 2 学 年	履修期間	通 年
講 義 内 容	美容鍼とは身体の内側から健康になることにより、顔を健やかにすることを目的とした鍼施術のことである。 美容のための鍼施術について、必要な知識とカウンセリング、鍼管を使わない刺入方法と、症状別鑑別及び施術について学ぶ。 就職ガイダンスでは、就職についての心構えやイメージづくりを行う。 就職先として、様々な分野の、それぞれの考え方や施術方法などを学ぶことで、自分のビジョンを明確にし、仕事に対する意識を具体的に持つようにする。 外部講師による臨床的美容鍼や、ICCO式美顔はりにおける基礎的な知識と、基礎技術、創傷治癒機転の皮膚の再生機序、美容成分の増加機序を学ぶ。		
評 価	臨床実習における出席、授業態度、積極性、レポートなどを評価し、終了時点の総合判定で最終評価とする。		
備 考	外部講師による実習内容・時間などの詳細については、その都度事前アナウンスを行う。 進行状況や理解度に応じて、授業内容に変更がでることもある。		
参 考 書 等			

講義科目名	臨床実習Ⅱ－b	分野区分	専門分野
担当教員名	菅野 正（実務経験有り） 北上 貴史（実務経験有り）	講義回数	24 回
履修学年	第 2 学 年	履修期間	通 年
講義内容	子どもの施術においては「技術の習得」「子どもとの接し方」「保護者の説得」が大切である。これにより施術効果を高め、疳の虫/便秘/夜尿症/アトピー性皮膚炎/寝つきなど種々の症状に対処していく。 ・小児はりの手技をスムーズに行うことができる。 ・小児はりの意義を理解する。 ・小児や保護者との接し方を適切に行うことができる。 ・鋤鍼について理解を深める。		
評価	・実習に臨む姿勢とレポートが評価となります。 ・出席状況は総合評価の時点で加味する。		
備考	※進行状況や理解度に応じて、授業内容に変更が出ることもあります。		
参考書等	大師流小児鍼 奥義と実践（谷岡賢徳） チタン鋤鍼		

第 2 学 年					科 目 (臨 床 実 習 II - b)					担 当 (菅 野 正・北上 貴 史)				
	編	章	節	時 数	日 付	内 容								
前期				1	4月5日	在校生オリエンテーション								
	9			2	4月5日	在校生オリエンテーション								
	10			3	7月7日	就職臥位ダイス(仮)								
	11			4	7月7日	就職臥位ダイス(仮)								
	12			5	7月17日	同窓会								
	13			6	7月17日	同窓会								
	14			7	6月8日	校内実習① 小児鍼の治効理論								
	15			8		↓								
	16			9		子どもとの接し方(子どもと遊ぶ)								
	18			10	7月20日	↓								
	19			11		子どもとの接し方、保護者の接し方と説得								
	20			12		腹部打診法実技/皮膚の診察法								
	21			13	8月3日	スギンタッチ・セルフケア								
	22			14	9月21日	施術のリハーサル								
	23		課外実習	15	10月26日	幼稚園にて施術実践①:外部講師・菅野先生の施術サポート								
	24		課外実習	16	11月9日	選択:幼稚園にて施術実践②/便秘の講義と手技								
	25		課外実習	17	12月14日	選択:幼稚園にて施術実践③/寝つき改善の講義と手技								
	26		課外実習	18		選択:幼稚園にて施術実践④/かゆいかゆ対策の講義と手技								
	27			19		選択:幼稚園にて施術実践⑤/夜尿症の講義と手技								
	28			20										
	29	実技試験		21										
	30			22										
	31			23										
	32			24										
				24		※日程は変更されることがあります。								
	合 計 時 数			24										

講義科目名	臨床実習Ⅱ－c	分野区分	専門分野
担当教員名	荒木 宏之(実務経験有り)	講義回数	24 回
履修学年	第 2 学 年	履修期間	通 年
講義内容	スポーツ鍼灸の役割は、競技現場だけでなく、施術所等の日常的な対応こそが外傷・障害の発生を未然に防ぐ方法として重要になる。外傷・障害の発生要因として、疲労の蓄積によるoveruse syndromeが指摘されている。疲労や痛みを早期回復させることは、競技者のパフォーマンス向上はもちろん、外傷・障害の発生予防ばかりだけではなく、円滑なトレーニングの継続や効率化を図り、コンディショニングに寄与するものである。 本講義においては、学校内実習において低周波鍼通電器を用いて、目的の筋への刺激を中心とした基礎練習、機能評価ならびに治療法を学習する。また、外部実習においては臨床現場での対処法やコンディショニング法を学習する。		
評価	・学校内実習ならびに外部実習での取り組みやレポート内容にて評価する。 ・出席状況・授業態度などは年度末の総合評価の時点で加味する。		
備考	・使用する鍼:セイリン社製 寸3－3番J(40mm20号鍼)を中心に使用。 ・低周波鍼通電器を使用。 ※授業開始前に準備をしておくこと。		
参考書等	・鍼灸マッサージ師のためのスポーツ東洋療法（医道の日本社） ・スポーツ鍼灸の実際（医道の日本社）		

第 2 学 年 科 目 (臨床実習Ⅱ - c)										担 当 (荒木 宏之)		内 容	
						時 数	日 付						
前期 後期	1		全体必須	在校生オリエンテーション	校内実習	1	4月5日	在校生オリエンテーション					
	2					2							
	3					3							
	4					4							
	5					5							
	6					6							
	7					7							
	8					8							
	9					9							
	10					10							
	11					11							
	12					12							
	13	選択 (2回のイベント参加が 必須)		外部実習		13	4/27 赤城トレイルリレーマラソン 5/11・12 高校総体陸上 7/27 メディカルカップ(サッカー大会) 9/7・8 学校対抗陸上 9/28 前橋トライアスロンフェスタ 11/3 ぐんまマラソン 11/24 メディカルカップ(少年野球大会) 1/11 かたしなスキー場実習 上記外部実習にて選手や来場者に対するケア、受付、誘導、教員の補助等を行います。						
	14					14							
	15					15							
	16					16							
	17					17							
	18					18							
	19					19							
	20					20							
	21					21							
	22					22							
	23					23							
	24					24							
合 計 時 数					24	※協力機関の都合により日程は変更されることがあります。							